清水興津中グループ「おきつ学園」 園・小中一貫教育基本構想

【地域の特性と児童生徒の実態】

＜地域の特性＞
- ○ 風光明媚で知られた清見潟が広がり、江戸時代には興津宿として東海道五十三次の17番目の宿場町として発展した。
- ○ 歴史ある興津の地には、先人たちが積み上げてきた地域の力が今でも、しっかりと残っており、地域に対する住民の愛着心・自負心は大変高い土地柄である。
- ○ 興津地区には、西園寺公望が晩年を過ごした別荘を復元した興津坐魚荘等、重要な建築物や歴史を残している地区である。

＜児童生徒の実態＞
- ○ 素直で、元気であり、学年が上がるにつれて、進んで挨拶ができる。節度ある言動ができ、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- ○ 行事に仲間と協力して取り組むことができ、仲間を大切にする思いやりの心が育っている。
- ○ 地域とのかかわりが深く、社会性や郷土愛が育まれている。
- ◆ 学習の基礎基本の定着を図る必要がある。
- ◆ 自ら判断して主体的に取り組む姿勢を伸ばしていきたい。

興津地区の特性を活用し　児童生徒の良さを伸ばし課題を解決する

小中共通目標の実現を目指して

視点１　目標の共有

小中一貫教育 教育目標　「心豊かで　高め合う子」（小中共通）

【目指す子どもの姿】
自分を取り巻くすべての人・もの・ことに感謝し、仲間と協力し、より良いものを創造している姿

義務教育9年間の系統性・連続性「たてのつながり」

視点２　連続性・系統性

【柱１】
指導観を共有し、一人一人を大切にした教育の推進
- ・各教科等の学習内容の実態把握
- ・小中の系統性を意識した教科等の年間指導計画
- ・総合的な学習の時間（おきつ学）の実施
- ・特別支援教育の充実と研修 ・保健教育の推進 等

【柱２】
子どもが生活しやすく授業に集中できる環境づくり
- ・基本的な生活習慣（服装・言動・時間）の徹底
- ・校舎内が整理整頓され授業に集中できる環境
- ・考えを伝え合い、学びを深める授業構想
- ・仲間を思いやり、安心して生活できる環境

教育の条件整備
（予算の有効活用・小中連携した事務室運営）

視点３　協働・交流

【柱３】
教職員・児童生徒が協働した交流活動の推進
- ・交流授業の実施　・幼保園との交流
- ・合唱交流の実施
- ・児童会・生徒会による挨拶運動
- ・小・中学校による特別支援学級の交流
- ・教職員のための特別支援教育研修　等

視点４　地域連携

【柱４】
郷土を愛し、貢献する心を育てる地域連携
- ・地域人材の積極的活用（講師派遣、学校応援団等）
- ・「興津型防災学習」での地域との交流活動の実施
- ・地域防災訓練やボランティア活動への積極的参加
- ・地域行事（朝鮮通信使・祭典）への参加
- ・地域施設の利用　等

保護者・地域との連携・協働「よこのつながり」

おきつ学園小中一貫教育目標の実現に向けて

① 小中一貫教育構想の共有
② 小中で共通・連続した取組検討
③ 小中一貫教育の成果・課題の検証

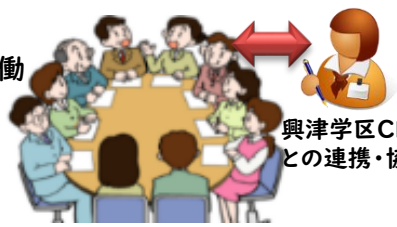
生活充実部会
- ○ **落ち着いた生活習慣**
  - ・「生活のルール」の共有・見直し
  - ・メディアコントロール
- ○ **子ども理解**
  - ・深い子ども理解
  - ・語る会等での情報共有

活動推進部会
- ○ **認め合える活動**
  - ・学級・学年等での認め合い活動
- ○ **委員会活動の推進**
  - ・児童会・生徒会活動の連携
  - ・児童会・生徒会での合同ｸﾗｽﾙｰﾑ開設
  - ・専門委員会の交流

学力向上部会
- ○ **学びに向かう姿勢**
  - ・「考えながら聞く」指導
  - ・基礎基本の定着
- ○ **小中交流の推進**
  - ・図書「おきつ100選」の推進
  - ・作品の交換掲示（図工・美術）

各支援部会との連携・協働

※こども園との円滑な接続



興津学区CNとの連携・協働

地域連携部会
- ○ **「おきつ学」の充実**
  - ・9年間のカリキュラムの策定（「歴史・文化・産業・防災」学習）
- ○ **地域との交流**
  - ・地域人材の活用、行事への参加

おきつ学園コミュニティ委員会 ※ 興津地区PTA連絡協議会と兼ねる